

筋ジストロフィー症研究連絡協議会 編
筋ジストロフィーはここまでわかった
厚生省研究班 20 年の歩み

(A 5 判 244 頁 2,987 円 (税込) 1990 医学書院 刊)

荒木 淑郎

(熊本大学医学部第 1 内科)

●わが国初の大型の学際的な
プロジェクト

昭和 43 年 (1968 年) に発足した厚生省特別研究費補助金によるミオパチー研究班 (班長: 沖中重雄先生) はわが国での初めての大型な学際的なプロジェクトであり, その班研究方式は昭和 48 年に発足した特定疾患 (難病) 調査研究班の先駆的なモデルとなったことは周知のとおりである。

また現在の筋ジストロフィー対策は昭和 38 年 3 月に「親の会」(現在の日本筋ジストロフィー協会) が, ときの厚生大臣および医務局長に陳情し, 直ちに「進行性筋萎縮症対策要綱」が策定されたことにより始まったものである。これを受けて国は筋ジストロフィー患者の入院中の療育費用を負担し, 地区の国立療養所は大学機関と連携して患者を収容し, 学齢期の患者に教育の機会を与え, 積極的にリハビリテーションを行い, 世界

でも類をみない包括的な医療が展開されたのである。

この試みは, 厚生省, 大学研究機関, 国立療養所, 日本筋ジストロフィー協会のいずれにとっても初体験であったが, きわめて緊密な連携によって円滑に運営され, わが国の筋ジストロフィーの成因の解明と治療に大きな役割を果たし, その後わが国の研究は世界的な舞台で脚光を浴びることとなったのである。

●世界の筋ジストロフィー研究を
紹介

本書は, ただ単に厚生省研究班 20 年の歴史にとどまらず, 日本を含めた世界の筋ジストロフィーの研究の歴史と現状が簡単に解説されており, きわめてユニークな内容のものとなっている。

第 1 部では, わが国の研究の歴史と病態の研究をはじめ, 行政的対応が述べられ, 第 2 部では, 筋ジストロフィーの研究の現状につ

いて, 筋の成長, 病因, 遺伝相談, 疫学, 画像診断, データベース, 長期予後, 体外式陰圧人工呼吸器およびモデル動物についてわかりやすく解説されている。

筋ジストロフィーの研究に熱心な国ほど, 文化の程度が高いと江橋節郎先生は述べられているが, それは傾聴に値する言葉である。筋ジストロフィーに焦点を合わせて, わが国の研究者が真剣に取り組んできたこの 20 年間の成果は, まさに官民一体となった熱意によるものといえよう。

Duchenne 型および Becker 型筋ジストロフィーにおけるジストロフィンという蛋白質の欠損の発見は, まさにこれからの研究の出発点である。これを契機として筋ジストロフィーの成因の解明と治療法の開発への道が拓かれるように思われる。

本書は読んで興味つきず, 示唆に富む内容が多く, 医師をはじめ関連の方々に必読の書として推薦したい。また筋ジストロフィーの研究に全力を傾注された各界の先達の情熱に心から敬意を表するとともに, 今回の出版に対し努力された小沢鏐二郎先生をはじめ, 関係の方々に御礼申し上げたい。